

「人を育てることの楽しさと難しさ」(ユース対策部の紹介)

平成28年12月2日

宮崎でも朝夕が寒くなり、いよいよ冬の到来を感じる今日この頃です。
皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？

私は自治労連においてユース対策部長という責務を拝命しております。私の他にも4名の部員がおります。私たちは、ユース(=若手)世代を公務員として、また組合員として育成する担当チームです。

今回は、ユース対策部の取組みについてご紹介します。

ユース対策部では、主に次の事業を展開しております。

1つは「ユース部全国代表者会議」、2つ目が「全国ユース世代単組間交流会」です。

ユース部全国代表者会議は、年に2回、各組合のユース世代の代表などを対象に開催しています。この会議は、公務や組合活動に関する各種知識を学んだり、それぞれの自治体や組合が抱える課題を解決するための方策を協議したり、企画力やコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク研修を行ったりと、毎回様々な内容となっております。

全国ユース世代単組間交流会は、年に1回、ある組合が担当となり全国のユース世代を対象にした交流会を開催しています。ユース対策部が主催というよりは、担当組合が主催となります。この交流会では、開催地となる組合のユース世代によって地元の魅力を活かした様々な趣向を盛り込んだ計画をさせていただいており、集まった参加者にはそれぞれに交流や見聞などを楽しみながら深めていただいております。

私たち地方公務員には、地域住民のために粉骨砕身日々の公務を遂行することが求められています。その中において私たちは組合員としても活動することで、公務にも活かせる知識や技能を習得するよう努力しております。公務をしっかりと遂行できるからこそ組合活動にも取り組むことができ、公務の中での研修等もありますが、公務外の組合活動における研修等が相乗効果を生み出し、これが個々の更なるスキルアップに繋がることを目指しております。

そのツールの1つとして上記の事業が一役買っていると考えておりますが、毎回どのような企画にするのが難しいところでもあります。私たちに導かれて、参加者が知識や技能を十分得られるためにはどうしたら良いのか、参加者が地元に戻ったときに習得したものを同世代に普及してもらうにはどうしたら良いのか、今後もこのような経験を積んでスキルアップしたいという意欲を引き出すにはどうしたら良いのか、時には厳しく時には優しくと、このバランスはどうあれば良いのかなど、毎回色々なことを悩みもしますし、アンケートなどでユース世代の考えを参考にもしています。

しかしながら、初参加で不安な表情だったユース世代が、会議を2~3回と経験するうちに自信がみなぎる表情へと変わり、活発な議論をしている姿が見え始めると、私たちはとても嬉しく感じます。さらには、これらの活動を通じて徐々にユース世代同士での信頼関係が深まり、リーダーシップを発揮できるようにまでなると、今後の活躍がとても楽しみに感じられます。

どのような方も職場や地域などにおいて、次世代の育成という時期を経験するかと思います。皆さんそれぞれに喜怒哀楽を感じることでしょう。そこを一緒に乗り越えて行くと言いますか、共に成長して行くということが人材育成の醍醐味ではないかと思います。私自身も職場の部下の育成、所属組合のユース世代の育成、自治労連におけるユース世代の育成、そのほか地元の諸活動での後輩育成と、様々な経験をさせていただく中で自分自身も常々成長し続けなければならないと実感しております。

私たち自治労連は、友愛と信義の精神を持ち、地域住民に理解される組合活動を念頭に置いて活動しています。前述のとおり、まずは公務をしっかりと地域住民のために遂行し、そして組合活動にも精力的に取り組んでおります。決して主たる公務をおろそかにはいたしません。私たちはこうした自治労連の理念を次世代にも引き継ぎつつ、地方公務員としても組合員としても頼もしい人材へと導いていけるよう尽力していきたいと考えております。また、私たちもユース世代と共に日々の研鑽を怠らず、常に地域住民から頼りにされる存在であり続けたいと思います。

